

平成 25 年 8 月の解説（府県天気予報）

【8 月の天候状況】

上旬は太平洋高気圧の勢力が強く、沖縄・奄美や西日本では晴れて厳しい暑さが続きました。旬の後半は東日本でも晴れの日が多く、旬の終わりは東日本以西の各地で猛暑日となりました。一方、北日本と東日本日本海側は前線や気圧の谷の影響で、曇りや雨の日が多くなりました。9 日は、秋田県・岩手県で記録的な豪雨となり、河川の増水や土砂災害が発生しました。1 時間降水量では、鹿角（秋田県）で 108.5 ミリ、雫石（岩手県）で 78.0 ミリなど猛烈な雨を観測し、日降水量は、鹿角で 293.0 ミリ、雫石で 264.0 ミリとなりました。旬平均気温は、西日本と沖縄・奄美でかなり高くなりました。

中旬は太平洋高気圧の勢力が強く、東・西日本では厳しい暑さが続き、連日、全国 100 地点以上で猛暑日となりました。12 日は、江川崎（高知県）で日最高気温が 41.0 となり歴代全国 1 位を更新しました。沖縄・奄美でも晴れの日が多くなりましたが、湿った気流や台風第 12 号の影響で雨の日もありました。旬平均気温は、北・東・西日本でかなり高くなりました。旬降水量は、東日本太平洋側と西日本でかなり少なくなりました。

下旬は、旬の初めは、太平洋高気圧が張り出し、前線が日本海から東北地方に停滞しました。その後、前線が 23 日から 26 日にかけて日本海から本州の南海上へ南下したため、東・西日本では日本海側を中心に大雨となりました。24 日は、島根県では浸水害や土砂災害が発生するなど記録的な豪雨となり、桜江で 1 時間降水量 92.5 ミリ、日降水量 386.0 ミリを観測しました。月末は前線および台風第 15 号から変わった低気圧の影響で日本海側を中心に大雨となりました。沖縄・奄美では、旬を通して晴れの日が多くなりました。旬降水量は、北・東日本日本海側と西日本でかなり多くなりました。

月平均気温は、東・西日本、沖縄・奄美でかなり高くなり、東・西日本では平年を 1 以上上回りました。16 地点では 8 月の月平均気温の高い方からの 1 位を更新しました。月降水量は、北・東・西日本日本海側でかなり多くなり、浜田（島根県）では 8 月の月降水量の多い方からの 1 位を更新しました。一方、東日本太平洋側と沖縄・奄美では少なくなりました。月間日照時間は、西日本太平洋側ではかなり多くなりました。

【8 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 4 ポイント高い 83%、明後日予報は例年値より 5 ポイント高い 80%でした。各地方の適中率では、明日予報は北海道地方で例年値より 5 ポイント低い他は例年値以上となり、九州北部地方で 13 ポイント、九州南部・四国・近畿地方で 8~9 ポイント高くなりました。明後日予報は北日本と関東甲信地方で例年値より低く、北海道地方では 9 ポイント低くなりましたが、その他の地方では例年値より 8~15 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 1.5 でした。各地方の予報誤差では、北日本・東日本では概ね例年値より小さく、西日本以西では例年値と同程度となりました。最低気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.1 小さい 1.1 でした。各地方の予報誤差では、概ね例年値と同程度となりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10 月の天気予報の利用にあたって】

秋になると日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過するようになり、天気は数日の周期で変わるようになります。低気圧の通過後に北寄りの冷たい風が吹いて気温が下がり、その後高気圧に覆われて気温が上がるなど、寒暖の変動が大きい時期もあります。また、低気圧が急激に発達しながら日本付近を通過し、大雨や強風など大荒れの天気となることもあります。天気予報により大雨や強風などが予想される場合は、最新の気象情報や警報、注意報などに十分留意して下さい。